

建設業女性就業者座談会

愛知県建設業協会（藤本和久会長）と国土交通省中部地方整備局、建通新聞社は29日、名古屋市内で「働きやすい建設業に変わるために」と題して、建設業女性就業者座談会を開催した。土木や建築の施工管理、鉄骨検査の第一線で活躍する女性の技術者・技能者7人が一堂に会し、働きやすい就業環境などについて意見を交わした＝写真。



「働きやすい建設業」で意見交換

「休日の取得状況」については、「どうしても取らなければいけない休日は1カ月ほど前から現場の状況を踏まえ計画的に取得する」「法律や社内規定で網羅できないケースは、個々それぞれの状況に合わせて席者などと調整している」「依然

と比べ会社側も一緒に考え、臨機応変に対応してくれるようになった」などの意見があった。「女性が働きやすい環境」については、「その場その場がむしゅらにやってきました。ただ、頼めることは頼むことが必要。

誰かが誰かに支えられて仕事しているのだから」と、会社や家族、現場の仲間との「コミュニケーションが必要である」との意見が共感を呼んだ。「男性側の意識の変化」では、「女性が初めて男社会に飛び込むのは勇気がいる。自ら開いて

は、小さなことから少しずつ指り合わせしていくしかない」という意見もあった。反対に「女性側の意識」については、いやな思いをした経験はそれほどないという意見が多かった。「女性側より、受け入れる男性側に抵抗感があったよ

った意見があった。その反面で、「現場の管理者として一人前と認めてもらえているのか不安になることがある」といった不安を吐露する意見もあった。「長く働くには」のテーマでは、「今の仕事を続けながら、女性ならではのライフイベントをクリアできるか自信がない」「現場管理という仕事は好きだけど、家庭を持った際、現実でできるのかという疑問はある」という意見が出た一方で、「自身のミスを指摘されなかったことがある。配慮され過ぎるのはよくない」「現場で働いていられるのは若いうし独身だから。将来のヒジョンは見えていない。働

き方については会社側と折り合わせしておく必要がある」と、状況に応じて働き方を変えていく必要性を感じているという報告もあった。

出席者は、川北真伊さん（大島建設）、ウリエル・ガリド・ガデアさん（オノコム）、菊池麻耶さん（瀬上工業）、村田史子さん（徳倉建設）、久名木侑紀さん（トヨタT&S建設）、谷崎祐子さん（乃一）、村田里（村田工業）の7人。司会はキャリアエラの倉橋和世社長が務めた。

当日は、同協会の大西克典専務理事があいさつし、中部地方整備局の黒田良一建設産業調整官と同協会の高橋輝明労務委員長が挨拶した。

（詳細は後日掲載）